

JACET-Kanto Newsletter

一般社団法人大学英語教育学会関東支部

September 30, 2024, No.23

JACET 関東支部ニュースレター第 23 号 (WEB 版) 刊行に寄せて

支部長 山口高領 (秀明大学)

JACET 関東支部の活動にご協力いただき、誠にありがとうございます。第 63 回 JACET 国際大会(名古屋)は、あいにくの台風のため、縮小開催となりましたが、関東支部の先生方からは多くの方に司会を申し出て頂きました。

2024 年度からの現在の関東支部の体制としては、JACET 全体が 2 年毎に 1 期とする体制であることから、昨年度に引き続き、副支部長には、長田恵理先生(國學院大學)、支部事務局には、佐竹由帆先生(青山学院大学)、新井巧磨先生(早稲田大学)、鈴木健太郎先生(北海道教育大学)という 3 人にお手伝い頂いております。支部幹事は、この 3 人の先生方に加え、青木理香先生(東洋大学)にお引き受けいただいております。

私の関東支部支部長の任期は 2025 年 6 月までです。2021 年 6 月から 2 期 4 年の最大の任期となり、その後は次の支部長に引き継ぐことが規約上決まっております。会員のみなさまへの還元を常に考えつつ、次の体制へ発展させていきたいと考えています。こうした還元や発展のために、関東支部の会員のみなさまからのご意見を集め、実行していくことが必要であると考えております。そのために、関東支部大会についてだけでなく、関東支部の運営についてアンケートを実施しますので、ご協力いただければ幸いです。このアンケートの内容・締切情報などは本ニュースレターの最後にございます。

JACET 関東支部では研究企画委員を募集しております。現在 2025 年度の研究企画委員を検討しているところです。支部での仕事を分担し、和やかな雰囲気でさまざまな企画を実行していきたいと常に考えております。研究企画委員にご興味がある方は、JACET 関東支部事務局のメールアドレス jacet.kanto.office@gmail.com までお尋ねください。支部運営会議を経て、新たに委員をお願いするという流れであります。関東支部の主な活動は、関東支部大会の開催、JACET-Kanto Journal の発行、関東支部講演会の開催、ニュースレターの発行です。研究企画委員は上記の委員会のどれかに参加し、運営を行っております。2024 年度の 4 月から 9 までの活動の詳細は、本文を御覧ください。

今後とも、ますますのお力添えを頂けますと幸いです。

目次

・卷頭言

JACET 関東支部長 山口高領 -1-

・第 17 回関東支部大会報告

支部大会運営委員長 山口高領 -2-

・第 1 回支部総会報告

支部事務局幹事 佐竹由帆 -6-

・支部講演会委員会報告

支部講演会委員長 青木理香 -9-

・JACET 関東支部講演会(第 1 回)報告

支部講演会委員 青木理香 -9-

・支部紀要編集委員会からのお知らせ

支部紀要編集委員長 鈴木健太郎 -10-

・事務局だより

支部事務局幹事 佐竹由帆 -10-

第17回 関東支部大会報告
支部大会運営委員長
山口高領（秀明大学）

今回も、支部大会テーマに沿った基調講演、招待講演とシンポジウムを開催できました。

“English Language Teaching in Higher Education in the Era of AI”というテーマでした。基調講演は、Yorkville University の Shahid Abrar-ul-Hassan 先生による “Realigning language assessment practices in the era of AI、招待講演は、関西大学の水本篤先生による “Update on the Current Generative AI Use in Applied Linguistics”が行われました。関東支部以外の会員の参加もあり、非会員の方も参加しました。

今回は、2019年度の関東支部大会以来5年ぶりに、対面開催となりました。昨年度に関東支部の会員のみなさまから頂いたアンケートの結果を踏まえてのことです。賛助会員の展示は13社からなり、過去最大級の展示規模でした。一方で、コロナ前のような参加人数には至りませんでした。

来年度は、国際大会が関東支部地区の大学で行われる予定です。2017年度に青山学院大学で国際大会が行われた年度には、支部大会はお休みとしました。2025年度に支部大会を開催するかは、関東支部会員のみなさまからのご意見を参考にしつつ、支部運営委員会で決めてまいります。

■司会者による後記■

まず、以下に、実践報告と研究発表について、司会をしてくださった先生からのご報告を掲載します。なお、プログラムにあるとおり、賛助会員LTや関東支部AIと大学英語教育研究会のシンポジウムも行われました。

9:40-10:10 (17501教室) 研究発表「基礎教養英語

Interaction クラスへの共通教科書リストの導入：学生へのアンケート調査とインタビューからみえる課題」志村 美加・中竹 真依子・永田 祥子・目黒 沙也香（学習院大学外国語教育研究センター）

司会：小屋 多恵子（法政大学）

本発表は、学習院大学外国語教育研究センターによる英語カリキュラム改編により、共通教科書リストを英語インターラクションクラスに導入した効果と課題を、学生アンケートとインタビューから分析・考察したものである。結果としては、教科書のレベルや内容、アクティビティ、英語使用の量は概して適切であり、学生の満足感につながっていることが明らかになった。さらに、学生のニーズとクラスの担当教員の視点をより合致させる策を検討する必要があるとの見解が示された。

9:40-10:10 (17502教室) 実践報告「自動翻訳・生成AI時代の英文和訳課題の在り方」 大味 潤（東京経済大学非常勤講師）

司会：下山 幸成（東洋学園大学）

自動翻訳や生成AIの活用法を示すとともにその限界を伝えた上で行った英文和訳課題について、その具体的な課題内容、指導方法、評価方法を報告する発表であった。直訳から英語の文化背景やニュアンスを踏まえた意訳へと促すための工夫とともに、英語の意味を正確に捉えようとする態度の習慣化、グループ学習の常習化、英語表現・日本語表現に敏感になることで得られる分かり易い和訳といった効果が示され、今後の課題として個別指導に関する問題点が挙げられた。

10:20-10:50 (17501教室) 研究発表「英語ライティング支援ツールに対する大学生の評価と利用実態—インタビュー談話の分析から—」 山本 紗

(東洋大学)・鈴木 雅子 (昭和女子大学)

司会：大井 洋子 (清泉女子大学)

大学のアカデミック・ライティングの授業でライティング支援ツールを導入し、学生が自動添削機能をどのように評価し利用しているかについての実践的研究が発表された。半構造化インタビューを使った質的研究手法が使われた。研究参加者の多くはライティング支援ツールの即時性に肯定的反応を示したが、自分のライティングから独自性が消えてしまうことに対する懸念の声も一部聞かれた。AIなどの技術発展とうまく向き合っていかなければならないという結論が示された。

10:20-10:50 (17502 教室) 研究発表 “Towards a Realistic Teaching of English Pronunciation in Japan” 湯澤 伸夫 (Nobuo Yuzawa) (宇都宮大学)

司会：小張 敬之 (グローバル Biz 専門職大学)

Grammar, vocabulary, and pronunciation are three fundamental components of language skills. However, in teaching English in Japan, insufficient time is spent on pronunciation compared to the other two components. Sound discrimination practice and ear training, although useful methods for improving pronunciation, are not utilized enough. The latest Course of Study does not appear to treat pronunciation and grammar equally. Like grammar, there should be a classificatory explanation in pronunciation, such as the point of articulation and the manner of articulation. There should also be improvements in explaining the pronunciation of ‘what time’ and in addressing sentence stress and intonation more effectively to help English teachers understand the importance of teaching pronunciation. On the other hand, judging from the reality that many students do not know the features of English sounds, more attention should be

paid to functional loads, the Lingua Franca Core (Jenkins), and International English (Gimson/Cruttenden) as realistic solutions. For example, quantitative distinctions should be taught carefully, including the one in vowels between ‘cap’ and ‘cab’. The /l/ and /r/ phonemes should be taught more seriously because their functional load is very high in international communication. International intelligibility can be a realistic solution for many Japanese learners of English.

11:00-11:30 (17501 教室) 研究発表「生態学的な大学英語教育の構想：英語ビジネスコミュニケーションを手掛かりに」 井田 浩之 (城西大学)

司会：馬場 千秋 (帝京科学大学)

英語教育で用いられた客観的な指標が「人の学びの実態」を捉えているのか、指標が妥当かを検討するために、「英語ビジネスコミュニケーション」履修者 (N=80) に授業内容のリフレクションを自由記述させ、言語データを精読し、回答者の経験のリアリティを反映した分析を行った。その結果、教室環境内外での相互作用、状況との仮想的相互作用が見られた。生態学的側面の導入で、学習者自身が英語学習に関わる実態が可視化できた。

13:00-13:50 (17510 教室) 招待講演 “Update on the Current Generative AI Use in Applied Linguistics” 水本 篤 (Atsushi Mizumoto) (関西大学)

司会：河内山 晶子 (明星大学)

水本篤先生が前回、JACET セミナーで講演をされたのに続く発展バージョンである。今年は先生のご配慮もあり、より多くの時間を参加者からの疑問の解決と参加者同士の協議に費やした。講演概要は、前回以降の生成 AI の進化を踏まえた知

識のアップデートが中心で、ChatGPT 活用の英文ライティングの際の、学生レポートでの剽窃を AI が見抜けるかにも言及があった。グループ協議では、AI 活用の実践が多いことに良い刺激を受けている参加者が多く見られた。また細々とした多くの疑問に対して先生がカテゴリー分けした上で、効率的・効果的に回答されたので、一時間枠ではあったが極めて密度の高い内容になった。資料はご厚意により公開中なので参照されたい。

14:00-15:10 (17510 教室) 基調講演 “Realigning language assessment practices in the era of AI”

Shahid Abrar-ul-Hassan (Yorkville University, Canada)

司会：神村 幸蔵（筑波技術大学）

I was honored to invite Dr. Shahid Abrar-ul Hassan as the keynote speaker at the 17th annual convention of JACET Kanto Chapter and chair his keynote session. He has been working as a language educator, researcher, and teacher development professional for over two decades at institutions in many regions of the world. He currently works as Professor at Yorkville University, British Columbia Campus, in New Westminster, Canada. At the conference, he gave an insightful presentation on realigning language assessment practices in the era of AI. As English for Specific Purposes (ESP) programs grow and evolve at universities around the world, the ways we assess students, the skills we teach, and the materials we use need to address the requirements of language education focused on communication in specific academic fields. His talk began with the fundamental aspect of ESP as being needs-driven and based on a needs analysis, which lays the foundation of an ESP course. He reviewed briefly the current developments in the field of ESP from “ESP = EAP + EOP” to now EAP being an eminent subfield as “EAP = EGAP

(English for general academic purposes) + ESAP (English for specific academic purposes).” His presentation also highlighted the relevance of Language Assessment Literacy (LAL) for effective assessment practices in ESP, which involves skills, knowledge, principles, uses, ethics, and impact of assessment. Finally, Dr. Hassan discussed how to revisit and innovate ESP assessments to address new developments in teaching practices, such as AI and how LAL can improve assessment approaches and methods in ESP programs. Dr. Hassan’s presentation and the question-and-answer session that followed together made the conference a meaningful professional development experience for the participants who came from across Kanto region. I am grateful to Dr. Shahid Abrar-ul Hassan for giving us the opportunity to benefit from such a precious presentation.

■大会参加者によるアンケート結果■

次に、今回の支部大会に参加してくださった方を対象に行った無記名アンケート結果を、「・」に続けてそのままお知らせします。貴重なご意見を頂けました。非会員の方のアンケート結果も入っています。

【よかつた点】水本先生の招待講演・基調講演・シンポジウムが好評だったようです。

- ・大学高等教育から見た英語教育の取り組みを知ることが出来た。(非会員より)
- ・シンポジウムの多様性(他支部会員より)
- ・良かった
- ・水本先生の時間配分を厳しく統制された活動が大変勉強になりました。
- ・生成AIの水本先生の講演と議論/質疑応答は50分の短い間に濃い内容があつて良かった。
- ・オーディエンスから建設的な質問が得られたこと、いろんな先生方にお目に書かれた点。

- ・受付の QR コードはよかったです。
- ・他大学の実践研究を聞けて大変参考になった。
(支部運営委員より)
- ・基調講演は良かった。(支部運営委員より)
- ・よく準備されていた。チームワークがよかったです。
受付が簡素化されて良かった。(支部運営委員より)

【改善点】今後、質疑応答時間や休憩時間の扱いを特に検討します。

- ・高大連携を見据えて、お互いに学習者に対して養ってほしい力を明確にしてほしい。(非会員より)
- ・質疑応答を倍々に (他支部会員より)
- ・通常休憩時間になっているようなご発表間の時間が贊助会員様のコーナーになっており、実質的に休憩がない一方、説明されている贊助会員様にとってあまり聞かれていないくてやりづらいなどあったのではとも思いました。必ず誰かは室内にいるという意味では、別枠で独立で時間を取るより良いということになったのではないかと推察いたしました。
- ・人手が足りていないのか、大御所の先生まで駆り出されていたので、運営の先生方にずいぶん負担がいっていたのではないかと想いましたが、支部長の先生方含めて、overwork になっていたのではないかと懸念しています。
- ・とてもよかったです、これを続けてください。
- ・受付の効率化など、工夫がみられて、スタッフも一緒に勉強できる点はとても良いと思います。
(支部運営委員より)

【基調講演やシンポジウムで取り扱ってほしいテーマ】体験談や助言のコーナー設置は検討します。

- ・高大連携 (非会員より)
- ・実践報告 (他支部会員より)

- ・国際学会への参加や発表の体験談や助言のコーナーがあると若い方が積極的に巣立つのでは?
- ・AI 活用について
- ・レメディアル教育や e-learning の活用 (支部運営委員より)
- ・超速で進化しつつある生成 AI は、これからも当分ずっと扱っていく (これのみではなくともセミナーの一部ででも) のがよいと思います。
(支部運営委員より)
- ・とっても良かったです。(支部運営委員より)

■関東支部運営についてのアンケート■

関東支部は、限られた研究企画委員にて運営しています。2025 年度の関東支部の事業計画を立案する時期になりましたが、関東支部会員の声を反映させるために、以下の項目について意見を頂く機会を設けることに決めました。

アンケートは、以下のフォームの URL をクリックしてご回答ください。特に意見がない場合には、未入力部分があっても構いません。整理の都合上、10月11日(金)を回答最終日とさせていただきます。

<https://forms.gle/57tNB1uQHZF3tmC27>

1. 関東支部大会について

来年度は、国際大会が関東支部地区の大学で行われる予定です。2017 年度に青山学院大学で国際大会が行われた年度には、支部大会はお休みとしました。2025 年度に関東支部大会を行うかどうか決める必要があります。

次に、開催するとしたら例年通り 7 月上旬といった時期について伺います。

最後に、次回以降の関東支部大会の開催形態などについて伺います。形態は、3 つの可能性 (対面開催・Zoom 開催・ハイフレックス開催) を考えています。頂いた回答と、関東支部の予算や人員の関係などを考慮し、決めて参ります。以下の

ような長所や短所を考えておりますが、他にもあるかと思いますので、ぜひご回答ください。

○対面開催：会員同士の交流の促進・特に新しい関係構築に有益・非言語情報が伝わりやすい点・贊助会員などの展示物を一覧で理解できる点

○Zoom 開催（後日録画視聴サービス付き）：発表の時間と場所に制限をあまり受けない点・交通費不要・録画視聴の場合は停止してスライドを検討できる点

○上記 2 つのハイフレックス開催：上記 2 つの長所を兼ねるという長所・開催のための手間と費用がかかるという短所

2. 関東支部講演会について

年に 4 回ほど講演会を行っていますが、聞いてみたいテーマや講演者がいましたら、教えて下さい。

3. 関東支部のその他の事業について

関東支部紀要、関東支部ニュースレターや、メーリングリストなどといった事業についても、お気づきの点がありましたら教えて下さい。

第 1 回支部総会報告

支部事務局幹事

佐竹由帆（青山学院大学）

2024 年 7 月 6 日（土）に青山学院大学で、2024 年度第 1 回支部総会が開催されました。支部総会では、2023 年度事業報告・会計報告、2024 年度事業計画についての説明が行われました。以下に内容を記載いたします。会計報告は省略いたします。

■2023 年度事業報告 ■

I. 大会、セミナー等の開催（1 号事業）

(1) 支部大会の開催

名称：2023 年度関東支部大会

日時：2023 年 7 月 8 日（土）

場所：青山学院大学/ オンライン

大会テーマ： Language Learning Advising: A profound Understanding of Its Potential

研究発表 3 件、実践報告 5 件、基調講演 1 件、招待講演 1 件、ワークショップ 1 件、SIG 発表 1 件、ライトニングプレゼンテーション 3 件

参加申込み登録者数：約 150 名

(2) 支部講演会の開催

第 1 回

日時： 2023 年 6 月 10 日（土）16:00-17:20

講師： 片山晶子先生（東京大学・早稲田大学非常勤講師）

場所： オンライン（Zoom）

題目： 言語習得・言語使用の質的研究—インタビューを中心に

第 2 回

日時： 2023 年 10 月 14 日（土）16:00-17:20

講師： 金丸敏幸先生（京都大学国際高等教育院准教授）

場所： オンライン（Zoom）

題目： 大学英語授業に ChatGPT を活かすには—生成 AI の利点と注意点—

第 3 回

日時： 2023 年 12 月 16 日（土）16:00-17:20

講師： 竹田らら先生（昭和女子大学全学共通教育センター、国際学部 英語コミュニケーション学科特命准教授）

奥切恵 先生（聖心女子大学現代教養学部国際交流学科異文化コミュニケーションコース教授）

場所： オンライン（Zoom）

題目： 語用論の英語教育への応用と可能性 - ス

ピーティングとライティングからみえること -

(3) JACET 関東支部企画ワークショップの開催

日時： 2023 年 11 月 4 日（土） 14:00-16:00

場所： 青山学院大学/ オンライン

題目： 「みんなが分かる（かもしれない）
ベイズ統計の初步」今日から始めるベイズ
統計

講師： 竹内理先生（関西大学）

II. 『紀要』「支部ニュースレター」等の出版物の
刊行（2 号事業）

(1) 『関東支部紀要』第 11 号の刊行

日時： 2024 年 3 月 31 日

発行： デジタルデータ

※関東支部ホームページに掲載

(2) 『関東支部ニュースレター』第 21 号、第 22
号の刊行

日時： 2023 年 9 月 30 日

2024 年 3 月 31 日

※関東支部ホームページに掲載

III. その他（5 号事業）

(1) 支部総会の開催

名称： 2023 年度 第 1 回、第 2 回関東支部総会

日時： 1) 2023 年 7 月 8 日（オンライン）

2) 2023 年 11 月 4 日（オンライン）

目的： 1) 2022 年度の支部の事業報告、会計報告、
2023 年度の支部の事業計画

2) 2024 年度の支部の事業計画、予算案お
よび人事案の審議

(2) 支部役員会の開催

名称： 関東支部運営会議

日時： 2023 年 4 月 8 日、5 月 13 日、6 月 10 日、9
月 9 日、10 月 7 日、11 月 4 日、12 月 9 日、

2024 年 1 月 13 日、3 月 9 日

場所： オンライン

目的： 関東支部における支部事業、研究会活動、運営の報告、及び活動報告の立案、協議を行った。すべてオンラインで会議を実施した。

■2024 年度事業計画 ■

I. 大会、セミナー等の開催（1 号事業）

(1) 支部大会の開催

名称： 2024 年度関東支部大会

日程： 2024 年 7 月 6 日（土）

場所： 青山学院大学/ オンライン

規模： 約 150 人

(2) 支部講演会の開催

名称： 第一回 JACET 関東支部講演会

日程： 2024 年 6 月 22 日（土）

講師： 栗原文子先生（中央大学商学部教授）

清田洋一先生（明星大学教育学部教授）

中山夏恵先生（文教大学教育学部教授）

場所： オンライン（Zoom）

題目： 異文化間＆グローバルシティズンシップ
を育む英語教育—イタリア訪問調査から

—

名称： 第二回 JACET 関東支部講演会

日程： 10 月 5 日（土）

講師： 鈴木 彩子先生（玉川大学）

Alessia Cogo 先生（Editor-in-Chief of ELT
Journal）

場所： オンライン（Zoom）

使用言語： 英語

題目： 異文化間シチズンシップのための ELF コミ
ュニケーションの意識向上：日本とイギリ
スの事例研究（Raising Awareness of ELF
Communication for Intercultural Citizenship:
Case Studies from Japan and the UK）

名称：第三回 JACET 関東支部講演会

日程：12月 14 日（土）

場所：未定（オンライン、対面、あるいはハイブリッド）

内容：未定

形態：オンライン

目的：2025 年度の支部事業計画、予算案及び人事案の審議

(2) 支部役員会の開催

①第 1 回支部運営会議

日時：2024 年 4 月 13 日（土）14:30～15:30

形態：オンライン会議

議題：2024 年度支部大会について

②第 2 回支部運営会議

日時：2024 年 5 月 11 日（土）14:30～15:30

形態：オンライン会議

議題：2024 年度支部大会について

③第 3 回支部運営会議

日時：2024 年 6 月 8 日（土）14:30～15:30

形態：オンライン会議

議題：2024 年度支部大会について

④第 4 回支部運営会議

日時：2024 年 9 月 14 日（土）14:30～15:30

形態：オンライン会議

議題：新規研究企画委員、支部 ML への広報配信依頼、11 月支部企画

⑤今後の予定

第 5 回 10 月 12 日（土）14:30～15:30

第 6 回 11 月 16 日（土）14:30～15:30

第 7 回 12 月 14 日（土）14:30～15:30

第 8 回 2025 年 1 月 11 日（土）14:30～15:30

第 9 回 3 月 8 日（土）14:30～15:30

形態：オンライン

目的：支部の運営における審議、計画の立案

III. その他（5 号事業）

（1） 支部総会の開催

名称：2024 年度第 1 回、第 2 回関東支部総会

第 1 回

日時：2024 年 7 月 6 日（土）12:30-12:50

形態：オンライン

目的：2023 年度の支部の事業報告、会計報告及び 2024 年度の支部の事業計画

第 2 回

日時：2024 年 11 月 16 日（土）（関東支部企画と同日に実施）

支部講演会委員会報告

支部講演会委員長

青木理香（東洋大学）

■2024年度上半期活動報告■

2024年度上半期は、6月22日（土）に第1回支部講演会を行った。講師として栗原文子先生（中央大学）、清田洋一先生（明星大学）、中山夏恵先生（文教大学）をお招きし、「異文化間&グローバルシティズンシップを育む英語教育-イタリア訪問調査から-」というタイトルでご講演いただいた。

■2024年度下半期活動計画■

2024年度下半期は、10月5日（土）に、鈴木彩子先生（玉川大学文学部教授）、Alessia Cogo先生（ELT Journal Editor-in-Chief）をお招きし、「Raising Awareness of ELF Communication for Intercultural Citizenship: Case Studies from Japan and the UK（異文化間シチズンシップのための ELF コミュニケーションの意識向上：日本とイギリスの事例研究）」というタイトルで第2回支部講演会を開催予定である。また、12月14日（土）に第3回支部講演会を予定している。

JACET関東支部講演会（第1回）報告

支部講演会委員長

青木理香（東洋大学）

日時：2024年6月22日（土）16:00～17:20

講師：栗原文子先生（中央大学）、清田洋一先生（明星大学）、中山夏恵先生（文教大学）

場所：オンライン（Zoom）

日本語題目：異文化間&グローバルシティズンシップを育む英語教育-イタリア訪問調査から-

英語題目：Teaching English for Intercultural and

Global Citizenship: Some Implications from a Research Visit to Italy

発表概要：

デジタル技術の進化やグローバルな問題が増大する現代、外国語の学習者には、グローバル市民として、文化を含む複雑な地球規模の問題に対して自律的かつ批判的に分析したり、他者と協働しながら解決を図る力を身に付けることが求められている。Mercer et al., (2020) は、これからの中高生にとって重要な資質能力の1つとして、異文化間能力とシティズンシップをあげている。これらを背景として、筆者らは、本年2月に学習者のシティズンシップ育成を意図した英語教育の実践について理解を深めるため、イタリアのピネロロに訪問調査を実施した。本発表では、訪問調査において見学した絵本を用いたヨーロッパのCLIL実践、日本とイタリアの小学校間での絵本を用いた協同授業、そして、シティズンシップ教育を実践する教員のインタビューについて報告する。そして、それらを基に、シティズンシップの概念を日本の英語教育に取り入れるうえでの示唆を探る。

報告：

ご講演では、異文化間能力およびシティズンシップ教育の理論的背景と取り組み、そして日本とイタリアの小学校における絵本を使った協同学習について、先生方が実際に訪問調査されたイタリアにおける具体的な実践例、インタビューやワークショップの内容、生徒たちの様子などとともににお話しいただいた。まずは「シティズンシップ」「外国語コミュニケーション能力」の概念の変遷やそれに関連する枠組みについて、日本の文脈を交えながら説明していただいた。また、取り組みの例としてイタリアにおける School Without a Backpack をご紹介いただいた。次に、EU の助成金事業（エラスムス+）「ICEPELL」プロジェクトについて、絵本を使用した指導を計画する際に

意識すべき構造がイタリアでの実際の授業内でどのように展開されているかを紹介していただいた。最後に、清田先生が学生と開発された”My Sweet Stories”を用いた日本とイタリアの小学校間の協同学習について、絵本の概要、絵本を使用することのメリット、具体的な学習活動について話していただき、実践の際には、「現代の困難な世界を生きていくために必要な英語学習」という視点が必要であることを示唆された。Q&Aセッションでは、ヨーロッパの人々が持っている「地球市民」に対する危機感や日本における現状に関する質問があり、活発な意見交換が行われた。

(青木理香・東洋大学)

支部紀要編集委員会からのお知らせ

支部紀要編集委員長
鈴木健太郎（北海道教育大学）

紀要編集委員会は2025年3月の第12号の発行に向けて準備を進めています。募集は8月末をもってすでに終了し、多様なトピックに関する原稿をご投稿いただきました。これから複数回に渡る査読や校正作業を経て最終的にどのようなものが掲載されるのか今から楽しみです。

一方で、ここ数年前と比べると投稿数もやや少なくなっています。委員長として支部紀要の在り方や意義を考えさせられることがあります。支部紀要のよさの1つは、会員のみなさまと迅速に、そして密に意見交換ができることがあります。より多くの多様な方にご投稿いただき、そして原稿をお読みいただけるよう、ご意見などございましたらぜひともお寄せいただけますと幸いです。例えば、現在「論文」「研究ノート」「実践報告」の3つの区分がありますが、支部の特色を生かした新たな区分をなども検討していきたいと考えております。

投稿者、査読者、編集委員、支部運営委員、そ

して会員のみなさまのおかげで毎年素晴らしい紀要を世に出すことができております。今年度も紀要編集委員の活動を何卒よろしくお願い申し上げます。

事務局だより

支部事務局幹事

佐竹由帆（青山学院大学）

■支部講演会のお申込み■

第2回支部講演会の申し込みが始まっております。

日 時：2024年10月5日(土) 16:00-17:20

場 所：オンライン開催(定員100名)

使用言語：英語

講 師：鈴木 彩子先生(玉川大学)

Alessia Cogo先生(Editor-in-Chief of ELT Journal)

参加費：無料

参加方法：事前申込制

参加をご希望の方は以下のリンクから事前登録をお願い致します。

<https://forms.gle/iXfvMhJ4SZDsNjmx5>

また、12月14日(土)に第3回支部講演会を予定しております。

■関東支部メーリングリストについてご理解とご協力のお願い■

JACET関東支部メーリングリストでは、会員の皆様からのご依頼を受けて、講演会等の情報を発信しておりますが、特にご依頼の際には以下の点を予めよくご確認くださいますようお願い申し上げます。

・開催期日が配信依頼日より2週間以上先である

こと

- ・添付ファイルは受け付け不可

また、開催時間帯が JACET 関東支部主催の企画と重なっていると、配信をお断りすることがございますので、併せてご留意くださいますようお願い申し上げます。

ご依頼の催し物については、支部長・事務局・支部幹事が、その形式や内容などを確認したうえでお送りしていますので、配信までに多少のお時間を頂戴することがございます。

■住所変更届提出のお願い■

転居やメールアドレス変更など登録情報変更の際には、JACET 本部事務局へ変更届を提出してくださいますよう、どうぞよろしくお願いいいたします。

JACET-Kanto Newsletter 第 23 号

発行日：2024 年 9 月 30 日

発行者：JACET 関東支部（支部長 山口高領）

編集者：長田恵理、下山幸成、藤尾美佐

発行所：〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25

青山学院大学 佐竹由帆 研究室